



# 弘大農学部同窓会会報

第17号

平成8年10月14日 発行  
発行 弘前大学農学部同窓会  
TEL 0172-36-2111  
振替 02340-7-564  
印刷 (株) 笹 脛 印 刷



## 『農学部』という名称

農学部同窓会会長 中尾良仁

この会報が出るころは、黄金に輝く稲穂の波と、赤いリンゴがたわわに揺れる津軽の秋も終わり初冬を迎えていることでしょう。

同窓会の皆さんには、ますますご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

早いもので、皆さんのご協力を得て開催いたしました、弘前大学農学部40周年記念式典や祝賀会などから1年が過ぎてしまいました。

この次は農学部（学部の名称が変わっていいことなのでしょう）50年目の慶事をお祝いすることになるとおもいますが、その前に弘前大学の創設50周年を盛大に挙げる計画が進められております。これらの慶事を成功させるには、皆さんの絶大なご支援が不可欠でありますのでよろしくご協力をお願いいたします。

さて、同窓生の皆さんに、大変関心とご心



黒石市の東側リンゴ園から岩木山を眺望する

配をいただきました弘前大学の改革構想にもなう『農学部』の名称については、文部省の明年度の予算要求関連の新聞報道等によりますと、講座内容の充実と併せて『農学生命科学部』に決まりそうです。

このことについて、農学部同窓会がいくつかのアクションをおこしました。

その一つは、平成7年11月に「弘前大学農学部改革構想に関する要望書」を同窓会会長外役員一同の名で弘前大学農学部長に。その二つは、平成8年2月に「弘前大学農学部の名称存続について」のハガキによる要請を、同窓会員個々名で弘前大学学長、同農学部長外関係者に、それぞれ要望・要請しております。

この他、青森県農業会議、県農業中央会など農業団体が「農学部の名称存続について」の各種要請活動を行っております。

要望、要請の内容はいずれも

- (1)「農業」は食料の生産供給に止まらず、環境の維持保全および地域経済、社会を支えるとともに、独自の文化を育てている。
- (2)このように「農業」の持つ多面的な役割と機能に対し、今改めて注目と期待が高まりつつあるとき、農業に関する研究の「農学」が生物学科との統合のみで名称を変えなければならないほど、研究範囲は狭いとは考

えられない。

- (3)農業農村を取り巻く環境が一段と厳しさを増している中で、今後の農業の重要性を考えると、農学部から「農」の名称が消えることは、今後の農政の推進、地域社会の発展にとってもマイナスになると思われる。

- (4)よって『農学部』の名称変更には慎重に対処されたい。

などであります。以上の取り組みに当たって同窓会員の皆さんに多大のご協力をいただき誠にありがとうございました。

今農業がおかれている厳しい環境の中で、農学部に学び、多くの農業にかかわる分野で活動されている同窓生の皆さんの、農業を軸に新しい地域社会を創設すべく頑張っておられるその意欲が、「農学」の名称を消さない大きな原動力になったと受け止めております。

北の農業の時代といわれるなかで、農業関係者や地域のニーズに応えるため弘前大学農学部の教育研究機関として果たすべき役割はますます大きくなると思います。同窓生にとってもその願いは同じであります。そのためにも同窓生一人一人の暖かい支援が必要でありますのでこれまで以上のご協力をお願いいたします。



## 国際化と大学の英語教育

農学部長 菊池卓郎

いま様々な分野で「国際化」が叫ばれている。国際化の意味については人によって理解が異なるが、具体的な問題としては英語を読み書き話す力をつけて、欧米人と対等にディ

スカッションや交渉ができるようにしたいということであることが多い。弘前大学でも英語教育にはかなり力を注ぐようになった。そのひとつの表れは少人数教育（1クラス20人

以内)である。これを実行するには教養部や人文学部の英語の先生だけでは到底間に合わない。そこで農学部を含めすべての学部から数人ずつの教官に一年生の英語の授業を担当してもらっている。

英語教育の専門でないものが英語を教えるのは無理だとの意見も根強くあるが、多くの大学教官、とりわけ自然科学系の教官は、自分の研究を進めるうえで英語の論文を読む機会が多く、英語で論文を書く人も増えている。そういう教官が英語で書かれた科学に関する読みものや専門分野の入門的な書物をテキストとして使い、英語の読解力を養うとともに科学的なものの考え方を理解させたり、専門分野への関心につなげていこうというのが、英語の専門でないものが英語を教えるねらいである。

自然科学の書物や論文は専門用語は難しいが英語としてはやさしく、中学3年程度の英文法を理解していれば十分読みこなせる筈である。だから専門書が読めるようになるという目標に対してなら、英文学や英語学を専門とする先生方に教えて頂く必要はない。これが私を含め自然科学系の教官が英語を担当することを支持するものの考え方である。今年自分で英語を担当してみて、このことについての確信を深めた。itはthat以下のことを示す形式的主語であること、althoughはbutとは違うのだということ、the+比較級の構文など、手をとるようにして教えてやらなければならない学生が大部分なのである。こういうことを教えるのに英文学の専門家をわざわざするのは失礼としか言いようがない。大学受験であんなに難しい英語を勉強している筈なのにと思うが、このあたりに中学、高校の英語教育の根本的な問題があるのだろう。

英語を教えていてもうひとつ痛感したのは、少し離れた人に聞こえるような声で発言できる学生が少ないことである。それに「中学や高校のとき英語の発音は習ったのか」というような簡単な質問に対しても、声が出るまでに時間がかかるうえ発言が途中で途切れてしまう者が多い。日本語では「デス」とか「デアリマセン」等最後まで言わなければ、その人の考え方は全くわからないことになる。この最後のしめくりをしないのである。これは学生に限らず、テレビのインタビューなどをみてもそういう傾向が強い。つまり自分の考えをはっきり表明するのを躊躇するのが、最近の社会一般の傾向のように思う。英語はI thinkかI don't thinkというように最初に自分の考えをはっきり出す言語である。日本人が国際化するためには、英語教育よりもまずはっきり自分の考えを表明する訓練をするべきだと思う。

結論として私は国際化イコール英語教育という風潮には反対である。それはそれとして、半年間の少人数の英語の授業は学生とのふれあいが多く、おおいにやる気を示してくれた学生もいて、100人以上の授業が多い私にとって楽しいひとときであった。

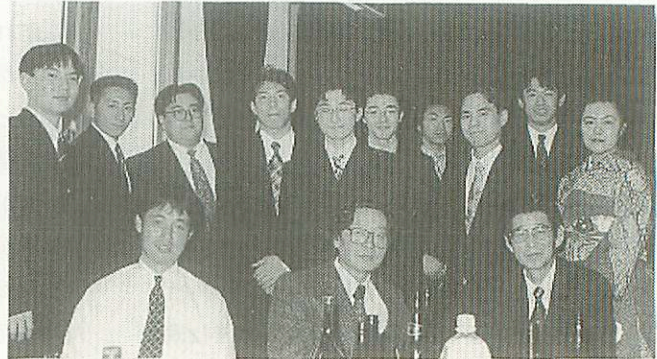


農学部の改組計画については、同窓生の皆様に御心配頂きましたが、お蔭様で平成9年度の概算要求に盛られることになりました。農学部と理学部生物学科が合体、シャッフルを行い、教養部教官の一部が加わって「農学生命科学部」として出発するという計画です。まだ大蔵省というハードルが控えていますので、我々としても気を引きしめて努力中です。





農学部長 菊池先生



浅田(武)先生



藤田先生

# 卒業祝賀会

1996. 3. 22



今 築立つ  
弥生の空に  
夢抱いて



高橋(秀)先生



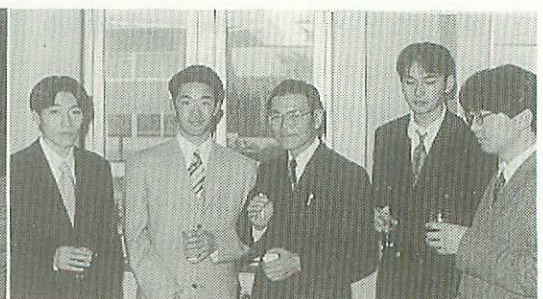
浅田(芳)先生

大町先生



安藤先生

城田先生



工藤(啓)先生

## 名誉教授の先生方をお招きして

1996.3.22

同窓会主催の卒業生をお祝いする会の終了後に、名誉教授の望月武雄先生、佐々木信介先生、森敏夫先生、農学部長の菊池卓郎先生をお招きして、『とり蔵』においてささやかな二次会を開きました。望月先生は80才を大分過ぎておられますが、とてもお元気でした。佐々木先生、森先生は、むしろ現役時代よりもお元気のように見受けられました。元気さでは、先生方に中尾会長、岩井前会長、土岐前副会長も顔負けの感じでありました。

二次会は、楽しい、あるいは少々ほろ苦い昔話に花を咲かせているうちに、予定の時間があつという間に過ぎてしまう程盛会でした。先生方の一層のご健勝を祈ってお別れしました。



幹事 斎藤寛

前会長 岩井邦彦

菊池先生 佐々木先生

幹事 角野三好

会長 中尾良仁

森先生 望月先生

前副会長 土岐政雄

### 事務局からのお願い

**住所：**転勤、転居等により住所がわからなくなった会員が増加しております。住所変更の際はぜひ事務局までご一報下さるようお願い致します。

会員名簿のご自分の住所、氏名などの誤りはいうまでもなく、他の会員の場合でも誤りなどに気がつかれましたらご連絡下さるようお願い致します。

**会費：**会費の未納者が増えております。本同窓会は規約に謳っておりますように、母校

の発展に積極的に寄与し会員相互の連絡、親睦を図ることを目的としております。主旨をご理解のうえ会費納入にご協力をお願い致します。

**活用：**同窓会報に対するご意見などお寄せ下さい。ご投稿をお待ち致しております。



### 教官人事

昇任 工藤 明 助教授（農学土木学講座）

## 新会員の皆さん (平成7年度卒業)

### 生物資源科学科

#### 生物機能開発学講座 (29名)

- ・江戸奈美子 みちのくココ・コーラボトリ  
ング(株)
- ・大川久美子 岩手生物工学研究センター
- ・大塚 麻衣 未定
- 大福 貴史 岡山大学大学院農学研究科
- 岡村 充博 弘前大学大学院農学研究科
- ・菊池 淳子 北海道職員
- 北野 拓磨 弘前大学大学院農学研究科
- ・木村 朋枝 青森市立道道中学校
- 小林 健一 弘前大学大学院農学研究科
- ・小松 有希 気仙沼市役所
- 齋藤 哲 J A岩代町
- 佐々木国芳 東北雪印食品
- 佐藤 昌志 弘前大学大学院農学研究科
- ・鈴木 智子 弘前大学大学院農学研究科
- 高橋 孝志 青森県リンゴジュース株式会社
- ・高林 葉子 八戸缶詰株式会社
- ・高松みのり 北海道食品加工研究センター
- ・田代さおり 八戸市立長者中学校
- 土嶺 康憲 弘前大学大学院農学研究科
- 成田 貴則 東京大学大学院理学系研究科
- 成田 真澄 弘前大学大学院農学研究科
- 根子 憲一 小岩井乳業株式会社
- 藤沢 大祐 ゼネカ薬品株式会社
- ・水上 里美 弘前大学大学院農学研究科
- 菊池 倫実 東京エレクトロン東北
- 阿部 聡志 未定
- 伊藤 洋 弘前大学大学院農学研究科
- ・駒井 美智 未定
- ・須郷早衣子 みちのくオフィスサービス(株)

#### 生物資源利用学講座 (26名)

- 阿部 孝夫 未定
- 有馬 淳一 伊藤ハムディリー株式会社
- 石山 明宏 山崎製パン株式会社
- ・井上 智子 弘前大学大学院農学研究科
- 川崎 耕太 弘前大学大学院農学研究科
- ・工藤美由紀 町田サカエ調剤薬局水耕部
- 小鹿 勇児 青森県土地改良事業団体連合会
- 後藤 英二 共和エムザー

- ・高橋美奈子 株式会社伊徳
- 谷野 牧生 日糧製パン株式会社
- ・田村 新子 ヤマト食品株式会社
- ・照井 陽子 弘前大学大学院農学研究科
- 似内 泉 弘前大学大学院農学研究科
- ・沼田 雅子 北海道農政部農業改良普及課
- 野村 宏之 株式会社カンショク
- 野呂 昌義 明治飼料株式会社
- 原田 昌彦 日本食研株式会社
- ・藤田真美子 弘前大学大学院農学研究科
- ・藤平由紀恵 弘前大学大学院農学研究科
- 保科 真一 ちば醤油株式会社
- ・前山 静香 金木地域農業改良普及センター
- ・宮下 玲子 千葉統計事務所
- ・門間 裕美 原町市役所
- ・柳 陽子 羽生市役所農政課
- 山脇 元 弘前大学大学院農学研究科
- ・鈴置 尚代 ゼネカ薬品株式会社

### 農業生産科学科

#### 園芸農学講座 (26名)

- ・石田 陽子 留学
- 伊藤 英男 カネコ種苗株式会社
- 奥田 昌泰 藤島園芸
- 上久保光幸 五所川原農林高等学校
- 菅野 晃市 未定
- 木村 篤志 自営
- ・工藤 由佳 有限会社広和
- ・近野 幸子 弘前大学大学院農学研究科
- 坂田 剛 映像塾
- ・佐藤美佐子 岩手統計事務所宮古出張所
- 白石 公德 八戸第2養護学校
- 二唐 周雄 弘前大学大学院農学研究科
- ・長谷川夏子 筑波大学大学院環境科学研究科
- ・畠山 直美 イワテプリミート株式会社
- ・日野沢裕子 有限会社パリ亭
- 平賀 正宣 自営
- ・富士 優子 未定
- ・福田 郁恵 弘前大学大学院農学研究科
- 藤澤 春樹 弘前大学農学部研究生
- 増井 純一 弘前大学大学院農学研究科
- 森山 聡彦 弘前大学大学院農学研究科

矢作 徹哉 宮城食糧事務所  
 木村 一哉 青森県畑作園芸試験場  
 鈴木 晃 自営  
 藤原 琢磨 岩手県信用農業協同組合連合会  
 黒田 昭 未定

・ 梁瀬 仁美 矢板市役所  
 山内 純一 東北地方建設局  
 山田 雅也 農業土木技術指導協同組合  
 神 大樹 中南農村整備事務所  
 佐々木政勝 トヨタカローラ八戸株式会社  
 吉田 匡志 最上川土地改良事務所

#### 生物環境管理学講座 (18名)

上野 智之 弘前大学大学院農学研究科  
 ・ 遠藤 恵美 東邦薬品株式会社  
 ・ 坂神たかね 北海道大学大学院農学研究科  
 ・ 進藤 晶 未定  
 ・ 鈴木佳奈子 弘前大学大学院農学研究科  
 関口 潤 金ヶ崎町役場  
 高田健一郎 富山県職員  
 ・ 友利 恭子 未定  
 長山 昭博 弘前大学大学院農学研究科  
 ・ 鳴海 智子 弘前大学大学院農学研究科  
 野宮 朋雄 弘前大学大学院農学研究科  
 平石 智信 片山津ゴルフクラブ  
 牧田 悟 弘前大学大学院農学研究科  
 御子柴茂郎 弘前大学農学部研究生  
 ・ 矢口 麻紀 米沢社会保険事務所  
 ・ 山本美由紀 カネ美食品株式会社  
 ・ 吉田由美子 雫石町役場  
 武藤 学 平鹿町役場

#### 農業生産流通学講座 (5名)

斉藤 潤一 未定  
 ・ 須藤 千春 武富士  
 速水 清悟 徳島県警察  
 ・ 山口 雅子 埼玉県庁農林部農政課  
 水口 貴夫 弘前大学大学院農学研究科

#### 農業システム工学科

##### 農業土木学講座 (19名)

新谷 貴裕 東北建設コンサルタント  
 伊香 正則 鹿島道路株式会社  
 石川 毅 弘前大学大学院農学研究科  
 稲垣 元昭 弘前大学大学院農学研究科  
 ・ 小畑 敏子 建設省土木研究所  
 ・ 金野 美香 岩手県教員  
 ・ 鈴木 奈緒 静岡県職員  
 住吉 祐一 富良野市役所  
 田上 文啓 仙北平野土地改良事務所  
 附田 貴大 明治コンサルタント  
 三上 亘 弘前大学大学院農学研究科  
 宮川 英幸 北海道職員  
 八木 平 弘前大学大学院農学研究科

#### 生産機械学講座 (9名)

上野 有徳 弘前大学大学院農学研究科  
 上野 貴司 上三川役場  
 小山内浩司 未定  
 小山 隆 未定  
 古川 信綱 未定  
 半田 潤 J A 全国農業技術センター  
 山本 忍 えんじゅの里  
 佐藤 賢 弘前大学大学院農学研究科  
 登嶋 守 弘前大学大学院農学研究科

#### 大学院

##### 生物資源科学 (12名)

井澤 弘美 未定  
 上田 創一 千歳市役所  
 教馬 恒平 岩手大学大学院連合農学研究科  
 熊谷 一 秋田県職員  
 清水 武史 名大大学院人間情報学研究科  
 ・ 澁谷 玲 未定  
 ・ 千葉 貴子 グリーンバイオセンター  
 新妻 和敏 福島県農業試験場冷害試験地  
 ・ 福井 要子 未定  
 松倉 千昭 名古屋大学大学院農学研究科  
 横田 実 北陸製薬株式会社  
 岩澤 起矢 全国農協直販株式会社

##### 農業生産科学 (5名)

安達 敏幸 自営  
 石黒 亮 岩手大学大学院連合農学研究科  
 工藤予志夫 南部病虫害防除所  
 古枝 知也 青森県りんご試験場  
 佐野 和茂 京都大学農学部研究生

##### 農業システム工学 (3名)

坂本 晃一 農用地整備公団  
 杉本 宏司 日本理水設計株式会社  
 孫 明 岩手大学大学院連合農学研究科

##### 園芸学 (3名)

東 淳樹 東大大学院農学生命科学研究科  
 葛西 功 未定  
 ・ 佐々木由美 東北イセキ株式会社

## 支部だより

### 「わんどの会」に出席して

卒業以来5年ぶりの阿部君の迎いの車で郡山駅を後にし、晩秋の澄みきった阿武隈山地を一路福島支部会場の浪江に向かった。今年の会場は海に面した民宿である。総勢28名の参加者の中には仙台から車でわざわざかけた葛原さんと高山さんもいた。「他支部の者も来る者は拒まず」だそうだ。6時からはじめた宴は支部長挨拶に始まり、わたしの大学の近況報告、この中にはもちろん大学改革の現状と大盛會に終わったばかりの40周年記念事業の報告も含まれた、そして自己紹介。9時30分に一応おひらきになったが、再び再開2時まで続く。翌朝も青い空、今度は持籠さんに福島駅まで送ってもらったうえお土産までいただいてしまう。途中サケの孵化場と彼が工事に携わったというダムを見学する。

今回は事務局から私一人の派遣となったが、同窓会で最も活動的な「わんどの会」に出席



して感じたことは、まず第一にこの支部の県外出身者の多さと、そしてその出席者の年齢構成が万遍ない上若い人の多さに驚かされたことだ。この支部の活動源の一端を垣間見る思いがした。支部長境さん、前支部長松本さん、次期支部長予定の畠沢さん(?)そして福島支部の皆さまに感謝し今後の活躍と健康を祈りたい。  
(宮入一夫記)

### 山形県支部「弘山会」総会開催

平成8年9月27日、山形県支部「弘山会」の総会が天童市で開催されました。

当日はすばらしい秋晴れで、黄金色に輝く穂波を眺め、仙山線の溪谷美を眺めて筆者は山形に到着しました。鈴木武氏の出迎えをうけて会場に着きました。会場は警察職員の厚生施設「パラシオがみ」という、非常にすばらしいところでした。天童の無色透明、無味無臭な温泉で汗を流し、会場へ足を運びました。午後6時半、大竹会長の挨拶で開会し、筆者が学部の近況等を報告しました。当日の参加者は11名と前回より少なかったようですが、参加者の卒業年次は昭和30年代から今年の卒業者まで、各年代にわたっておりました。山形県内の同窓生は58人と比較的少ないのですが、それだけに同窓意識が強いのかなと感じました。また、それぞれの人が様々な職種で活躍されている様子がうかがわれました。

懇親会は人数が少ないだけに皆、膝を交えて語り合い、旧交を温め、大いに盛り上がったことは申すまでもありません。山形名物の“いも煮”、食用菊“もつてのほか”もおいしくいただきました。宴会場の刻限後は会場を客室に移して夜更けまで懇親会は続きました。

翌朝もすばらしい秋晴れで、筆者は鈴木さんに蔵王温泉のグリア園に案内してもらいました。私個人の好みではグリアはあまり好きではなかったのですが、蔵王の山並みをバックに様々なグリアが咲いているのを見てグリアに対する考えを変えざるを得ませんでした。高いところから見た山形盆地の景色も見事でした。石造・煉瓦造りの旧県庁を見学し、昼過ぎ山形駅を後にしました。

大竹会長はじめ山形支部の皆様、本当にありがとうございました。また、出迎えおよび案内して下さいました鈴木さんありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。  
(斉藤 寛記)